

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 18 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520356

研究課題名（和文）統語構造の階層性に関する対照言語学的研究

研究課題名（英文）A Contrastive Study of Hierarchical Syntactic Structures

研究代表者

岸本 秀樹 (KISHIMOTO HIDEKI)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：10234220

研究成果の概要（和文）：言語の統語構造の「階層性」の視点から、自然言語における文法の可能性について解明を試みた。文の周辺要素および文の各要素が、統語上どのような階層性をなすかについてについて検討し、その要素が統語構造の中でどのように現れるかについての理論的考察を行った。対照言語学的な比較により理論的な検討を行うことにより、特に、これまで必ずしも明らかではなかった日本語、および他の言語の統語構造の階層性を検証することに寄与できる新たな言語事実の掘り起こしを行うことができた。

研究成果の概要（英文）：This research project has aimed to provide a theoretical account for how natural language syntax varies from a view point of hierarchical organization of syntax. This study has revealed the way how clause-peripheral and core elements are realized in syntactic structure. A close examination from a cross-linguistic contrastive perspective has made it possible to explore new empirical data, which have the potential to contribute to some controversial theoretical issues regarding the hierarchical structures of Japanese and other languages.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・統語論

キーワード：統語構造, 階層性, 言語対照

1. 研究開始当初の背景

非対格性の問題, 名詞化の問題, 述語の投射と階層などのこれまでの研究において, 十分に解決されていなかった問題点を解決す

ることが, 本研究の当初の目標であった。述語の連鎖は, 見た目には一つのまとまりのようには見えても, 統語的にはかなり重層的な層をなす構造を持っていることが多い。そのため, 述語に付随する名詞句要素がどのような位置関係を持つかが問題となっていた。その

問題を解決するために今回の研究課題が設定された。

2. 研究の目的

文の周縁的な要素が、統語上のような階層性をなす可能性があるかについて解明すると同時に、階層性の視点から日本語で得られている知見をもとに言語がどのように情報構造や統語構造に反映させられているかについて明らかにし、言語の形と意味を観察することによって、バランスのとれた言語理論を構築することを目指した。

本研究では、特に、次の二つの視点から、研究を行った。第一に、文の周縁的な意味に関与する要素の階層性の解明をめざし、文の周辺要素がどのように情報構造に反映されるかについての研究、第二に、文の核となる要素の階層性の解明をめざし、それぞれの核となる要素の持つ格標示などに関する意味的特徴を考察し、それが命題を構成する階層においてどのように反映されるかについての研究である。

3. 研究の方法

本研究課題は、言語の構造に関する理論的研究であり、基礎となる言語資料に理論的検討を加え、先行研究の問題点を洗い出し、理論的な貢献が可能な提案を行うことである。そのため、研究当初の段階においては、対照言語学的に文献資料収集し、言語のデータを検討、総合的に理論的な枠組みの検討を行った。そして、先行研究の問題点の洗い出しというプロセスを経た上で、自然言語の階層構造に関する理論開発を行い、研究の途中経過を公開の研究会、国内外の学会などで発表し、意見交換をおこなった。その後、必要な修正を加え、最終的に論文の執筆を行い、その成果を学術雑誌などに投稿した。

4. 研究成果

本述語の意味が異なることにより項の標示の形式が同じであっても統語的な階層性が異なってくる現象のうち、これまであまり議論されることがなかったものに関してその特性を本研究において明らかにすることができた。述語の表す意味と形式に関して、「名詞句+動詞」の連鎖を持つイディオムとそれと同じ動詞が現れる通常の文との比較を行った結果、イディオムの構文は、通常の名詞句とは異なる配置をするものが多くあることが分かり、

それに対する理論的な考察を行った。また、日本語・英語および Hindi, Marathi, Bengali 語の特殊構文(属格主語構文および与格主語構文)の比較対照を行い、その検討の中で、英語に対してはあまり見られないようなタイプの主語が Hindi, Marathi, Bengali に現れることがわかり、それに対応するものが日本語にも存在することを発見した。日本語に関する新たなデータの発見があり、比較統語論の視点から、他の言語も含め日本語の事実を説明する理論の開発を行った。これらの諸現象の検討を通じて、主語の階層性および、述語の表す意味と形式に関して、理論開発を行い、述語の意味と主語に与えられるマーキングとの間に相関関係があることを経験的事実に基づいて明らかにすることができたことが本研究の成果としてあげられる。

統語構造の階層性の研究成果は、国内外の学会等で報告した。研究成果の発表については、国外での学会において10件の報告の実績がある。著作された研究成果に関しては、日本語の統語構造・情報構造を中心に論じたものを国内外の学術雑誌に投稿し26件が出版された。特に、対照言語学的な比較により、新たに得られた日本語の事実・知見に関しては、データの貢献が期待されるものであり、この点において、将来的にも国内外の研究の進展に寄与することができるものであると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 26 件)

1. Hideki Kishimoto *Subject honorification and the position of subjects in Japanese.* *Journal of East Asian Linguistics* 21, pp. 1-41, 査読有 2012.
2. Hideki Kishimoto *Case and movement in syntactic V-V compound constructions.* *JELS 28: Papers from the Twenty-Eighth Conference of the English Linguistic Society of Japan*, pp. 54-60, 査読無 2011.
3. 岸本秀樹 「節の周辺要素：モダリティーと題目」武内道子・佐藤裕美(編)『発話と文のモダリティー：対照研究の視点から』pp. 115-137. ひつじ書房, 査読無 2011.
4. Hideki Kishimoto *Topicalization and coordination in Japanese.* *Andrew Simpson (ed.) Proceedings of 7th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, pp.171-186. 査読無 2011.

5. 岸本秀樹・影山太郎「存在と所有の表現」影山太郎(編)『日英対照名詞の意味と構文』pp. 240-269. 大修館書店. 査読有 2011.
6. 岸本秀樹・影山太郎「構文交替と項の具現化」影山太郎(編)『<日英対照>名詞の意味と構文』pp.270-304.大修館書店. 査読有 2011.
7. 岸本秀樹「壁塗り構文と視点の転換」影山太郎・沈力(編)『日中理論言語学の新展望 1 統語構造』pp. 33-57. くろしお出版, 査読無 2011.
8. 岸本秀樹「否定辞移動と否定の作用域」加藤泰彦・吉村あき子・今仁生美(編)『否定と言語理論』開拓社, pp. 27-50. 査読有, 2010.
9. Hideki Kishimoto 〇Subjects and constituent structure in Japanese.〇 *Linguistics*, 48.3, pp. 629-670. de Gruyter, 査読有, 2010.
10. Hideki Kishimoto 〇Possessor raising and two types of honorification.〇 *Nanzan Linguistics* 6, pp. 1-11, 査読有, 2010.
11. 岸本秀樹「受身の意味を表す「受ける」の語彙概念構造」『レキシコンフォーラム』No. 5, pp. 201-218. 査読有, 2010.
12. Hideki Kishimoto 〇Locative alternation and verb compounding in Japanese.〇 Angela Ralli, Geert Booij, Sergio Scalise, Athanasios Karasimos (eds.) *Proceedings of 7th Mediterranean Morphology Meeting*, 38-62. 査読無 2010.
13. Hideki Kishimoto 〇Honorific agreement in Japanese.〇 *Canadian Journal of Linguistics* 55, pp. 405-415, 査読有, 2010.
14. Hideki Kishimoto 〇Subject-to-subject raising in the *nai-de iru* construction.〇『神戸言語学論叢』6, 44-55, 査読無, 2009.
15. Hideki Kishimoto 〇On the formation of lexicalized negative adjectives.〇 由本陽子・岸本秀樹(編)『語彙の意味と文法』47-64, 査読有, 2009.
16. Hideki Kishimoto 〇Syntactic status of idiomatic subjects in Japanese.〇 *Nanzan Linguistics* 5, 41-60, 査読無, 2009.
17. 岸本秀樹「補文をとる動詞と形容詞: コントロールと上昇」影山太郎(編)『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』152-190, 査読有, 2009.
18. Hideki Kishimoto 〇Subject raising in Japanese.〇 Reiko Vermeulen & Ryosuke Shibagaki (eds.) *Proceedings of the Fifth Workshop on Altaic Formal Linguistics*, 査読無, 2009.
19. 岸本秀樹「部分的な達成を表す語彙概念構造について」趙華敏・沈力(編)『漢日理論言語学研究』pp. 38-46. 北京: 学苑出版社, 査読無, 2009.
20. Hideki Kishimoto 〇On the argument structure of ditransitive verbs in Japanese.〇 *Proceedings of 18th International Congress of Linguists*, 3253-3265, 査読無, 2009.
21. Hideki Kishimoto “Topic prominence in Japanese.” *The Linguistic Review* 26, 465-513, 査読有, 2009.
22. Hideki Kishimoto 〇Ditransitive idioms and argument structure.〇 *Journal of East Asian Linguistics* 17, 141-79. 査読有, 2008.
23. Hideki Kishimoto 〇On the variability of negative scope in Japanese.〇 44, 379-435, 査読有, 2008.
24. Hideki Kishimoto 〇Some lexically-derived differences in NPI licensing.〇『レキシコンフォーラム』4, 223-237, 査読有, 2008.
25. Hideki Kishimoto 〇Structural expansions of locational constructions.〇 今井光規・西村秀夫(編)『ことばの響き 英語フィロロジーと言語学』175-197, 査読無, 2008.
26. Hideki Kishimoto 〇On verb raising.〇 Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito (eds.) *Oxford Handbook of Japanese Linguistics* 107-140 査読有, 2008.

[学会発表] (計 10 件)

1. Hideki Kishimoto 〇Compound adjectives at the syntax-morphology interface〇 The Eighth Mediterranean Morphology Meeting, 2011 年 9 月 15 日 Cagliari, Italy.
2. 岸本秀樹 「「名詞+ない」の形態を持つ複合形容詞」日本言語学会第 142 回大会 2011 年, 6 月 18 日 日本大学
3. Hideki Kishimoto and Taro Kageyama 〇Valency Classes in Japanese I: Standard Language.〇 Conference on Valency Classes in the World 〇 Languages 2011 年 4 月 1 5 日 Leipzig, Germany
4. 岸本秀樹「統語的複合動詞の格と移動」日本英語学会第 28 回大会 2010 年 11 月 13-14 日, 日本大学文理学部
5. Hideki Kishimoto 〇Topicalization and coordination in Japanese.〇 7th Workshop on Altaic Formal Linguistics 2010 年 10 月 3 0 日 University of Southern California, USA
6. Hideki Kishimoto 〇Topicalization and hierarchical information structure in Japanese.〇 33rd Glow: Recursivity of Information Structure Workshop, 2010 年 4 月 1 3 日 University of Wrocław, Poland
7. Hideki Kishimoto 〇Locative Alternation and Verb Compounding in Japanese.〇 7th Mediterranean Morphology Meeting, 2009 年 9 月 12 日, University of Cyprus, Cyprus
8. Hideki Kishimoto 〇On the formation of

- negative adjectives in Japanese.ö Universals and Typology of Word-Formation, 2009年8月16-18日 Trnava University, Slovakia
9. Hideki Kishimoto öArgument structures of ditransitive verbs in Japanese.ö 18th International Congress of Linguists, 2008年7月21日 Korea University, , Seoul, Korea.
 10. Hideki Kishimoto öSubject raising in Japanese.ö *The 5th Workshop on Altaic Formal Linguistics* 2008年5月24日 University of London, United Kingdom.

[図書] (計4件)

1. 岸本秀樹 編著『ことばの対照』くろしお出版, pp. 361+vi , 2010年
2. 由本陽子・岸本秀樹 (編)『語彙の意味と文法』くろしお出版 2009年
3. 『ベーシック生成文法』 pp. 148+vii 2009年
4. 岸本秀樹・菊池朗『叙述と修飾』 pp. 230 2008年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岸本 秀樹 (KISHIMOTO HIDEKI)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：10234220

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし